

夏休みテーマ展

たん けん
探検!



会期：平成18年7月28日(金)～9月18日(月)

会場：佐賀県立名護屋城博物館企画展示室

名護屋城跡・陣跡群

1 武士と城

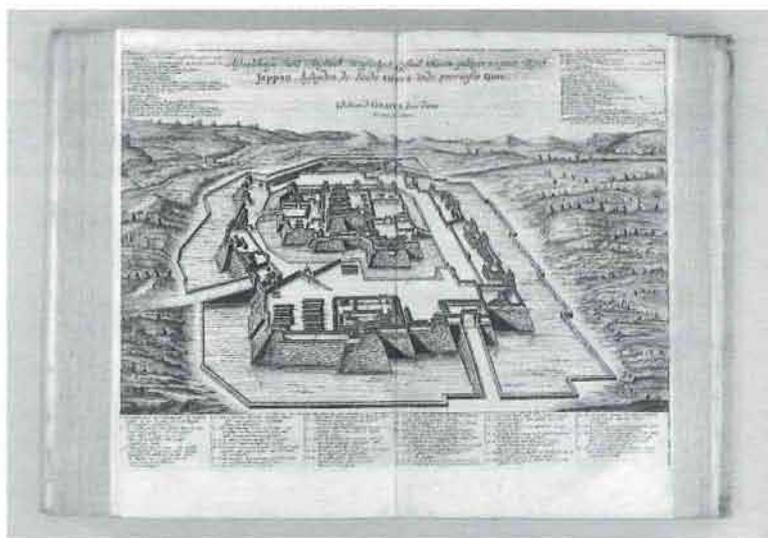
武士は武芸を鍛え、主君に従い戦う人々のこと。戦いに勝てば、主君から土地などの恩賞(ほうび)がもらえ、それで、家族や家来を養った。



大きな権力を持った武士は戦いに備え、敵の侵入を防ぐために城を築いた。



安土・桃山時代(16世紀後半)からは、まわりを全て石垣で囲まれた城が作られるようになった。



モンタヌス『日本誌』挿絵「大坂城図」[1669年、本館蔵]

『日本誌』はオランダ人牧師モンタヌスが日本を紹介した本で、その中にはたくさんの挿絵が載せられている。上の「大坂城図」は江戸時代に徳川幕府が再建した大坂城を描いたものである。周りを石垣で囲んでいることがよくわかる。



とよとみひでよし 豊臣秀吉画像

〔桃山時代末期～江戸時代初期、本館蔵、部分〕

全国統一を成し遂げた豊臣秀吉は『築城マニア』と言ってよいほど、多くの城を築いた。名護屋城・大坂城がその代表である。



かとうきよまさ 加藤清正画像〔茂呂金朝筆、江戸時代後期、本館蔵、部分〕

秀吉に幼い頃から仕え、厚い信頼を得た大名。武芸に優れるとともに築城の名手として知られ熊本城を築いた。名護屋城の築城では大名たちを指揮した。

2 名護屋城と石垣

1590年に全国を統一した豊臣秀吉は、中国・朝鮮半島を次に手に入れようとした。1591年10月、秀吉の命令で朝鮮国を攻めるために名護屋城の築城が始まった。5ヶ月後の1592年3月にはほぼ完成した。

1592年4月、15万の兵が名護屋から朝鮮半島へ攻め入った。この後1598年まで続いた日本と朝鮮国との戦争は、「文禄・慶長の役（壬辰倭乱）」と呼ばれた。

戦争が始まると中国が朝鮮国を助け、ともに日本と戦った。戦場となった朝鮮国ではたくさんの人々が殺されたり、建物が焼かれたり、田畑が荒らされたりした。また、日本や中国の兵もたくさん死んでいった。

1598年8月、豊臣秀吉が死ぬと、日本兵が朝鮮半島から引き上げて、文禄・慶長の役は終わった。



肥前名護屋城図屏風〔桃山時代、伝狩野光信筆、佐賀県重要文化財、本館蔵〕

この絵は加部島〔唐津市呼子町〕の天童岳から見た当時の名護屋のようすである。周りに立派な石垣を築いた名護屋城と城下町、名護屋浦に浮かぶ軍船（安宅船）などがくわしく描かれている。また、丸く囲んだ部分に描かれた行列は1593年6月、文禄の役を終わらせる話し合いをするために来日した中国使節団といわれる。

文禄・慶長の役が終わると、名護屋城は廃城になり、城内の建物は取り壊された。その後、徳川幕府の命令に従わない人々が、この城跡に立てこもったりしないように、石垣が破壊された。

破壊された名護屋城の石垣〔馬場跡南側〕

石垣の隅角と長く続く石垣はV字型に石垣が壊された。これによって、城の役目が果たせなくなった。



3 名護屋での大名の生活

全国から名護屋に集まった大名のなかには、朝鮮半島に渡海しない者もいた。(豊臣秀吉、徳川家康、前田利家などの実力者や、堀秀治など名護屋での留守番を命じられた大名など)



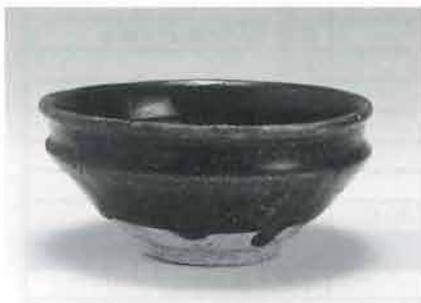
名護屋に滞在した大名たち(秀吉・家康・利家ら)は、その当時の大名や大商人たちに流行っていた茶の湯、能(能楽)をさかんに行った。



能面「若女」と能装束「唐織」〔ともに現代、本館蔵〕

能(能楽)とは、室町時代からはじまった芸能で、笛や太鼓などの演奏にあわせて、能面をつけた役者がうたいながら舞い、色々な物語を演じるものである。

豊臣秀吉は能を好み、名護屋城内にも能舞台をつくって、自ら能を舞った。この面と装束は若い女を演じるときに、着用するもので、秀吉も名護屋城で「杜若」という物語を舞ったときに用いた。



天目茶碗(名護屋城跡山里丸出土)〔桃山時代、本館蔵〕

天目茶碗とは、当時の大名たちが茶の湯で好んで用いた挿鉢型の茶碗である。最初は中国からの輸入品だったが、後に瀬戸・美濃(愛知県・岐阜県)などでも作られるようになった。

4 陣跡のようす

名護屋城の周りには全国から集まった160ほどの大名たちが陣(陣屋)を築いた。その中には、立派な石垣が築かれたものも多く、また、能舞台や茶室が建てられたものもあった。

名古屋陣之図〔江戸時代後期、本館蔵〕

名護屋城を中心に、各大名がどこに陣を築いたかが、よく分かる。



青花大皿(堀秀治陣跡出土)〔桃山時代、本館蔵〕

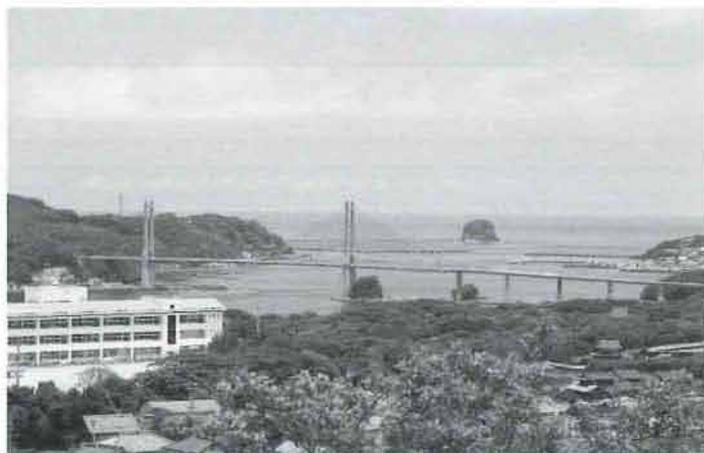
この大皿は中国から輸入された高価なものである。堀秀治陣跡では、能舞台や茶室の跡も見つかっている。

本丸から加部島方向をみた眺め



80年くらい前(昭和初期)

※左上は、加部島の田島神社



現在

主な出品資料

No.	資料名	形態(数量)	寸法(cm)	所蔵者(原蔵者)
1 武士と城				
1	豊臣秀吉画像	掛幅(1幅)	36.3×24.0	本館
2	金箔押菊文大飾瓦(複製)	瓦(1点)	径45.0	本館(大阪城天守閣)
3	モンタヌス『日本誌』[挿絵「大坂城図」]	洋書(1冊)	32.0×21.3	本館
4	馬蘭後立付兜「かぶと」(模造)	兜(1点)	蘭幅80.5	本館
5	加藤清正画像	掛幅(1幅)	78.5×32.2	本館
6	鏡「あぶみ」(伝脇坂安治所用)(復元)	鏡(1組)	長32.0 高27.0	本館(龍泉寺)
7	槍「やり」(相州住周廣銘)(複製)	槍(1本)	長446.0	本館(佐賀県立博物館)
8	重藤弓矢	弓(3張) 矢(10本)	弓長230.0、矢長100.0	本館
2 名護屋城と石垣				
9	名護屋城図(複製)	掛幅(1幅)	53.3×79.0	本館(個人)
10	築城図屏風(複製)	屏風(6曲1隻)	55.8×210.2	本館(名古屋市博物館)
11	肥前名護屋城図屏風	屏風(6曲1隻)	157.0×350.0	本館
12	肥前名護屋城図屏風(複製)	屏風(6曲1隻)	157.0×350.0	本館
13	丸瓦(名護屋城跡水手曲輪出土、「天正十八年」銘)	瓦(1点)	残存長28.0	本館
3 名護屋での大名の生活				
14	能装束(唐織)	装束(1枚)	丈183.0、桁152.0	本館
15	能面「若女」	面(1点)	長20.7、幅13.5	本館
16	菊桐文蒔絵什器 椀「はそう」(復元)	漆器(1点)	長27.0、高17.0	本館(佐賀県立博物館)
17	菊桐文蒔絵什器 角皿「つのたらい」(復元)	漆器(1点)	長74.0、幅41.0、高20.0	本館(佐賀県立博物館)
18	神屋宗湛日記(影印本)	書冊(1冊)	26.8×20.0	本館
19	天目茶碗(名護屋城跡山里丸出土)(復元)	茶碗(1点)	復元口径12.7	本館
4 陣跡のようす				
20	名古屋陣之図	掛幅(1幅)	117.5×129.5	本館
21	名護屋城并諸侯陣跡之図[「松浦記 集成附録一」所載]	書冊(1冊)	24.0×16.5	個人(唐津市教育委員会保管)
22	青花大皿「堀秀治陣跡出土」(復元)	皿(1点)	復元口径38.5	本館
5 写真・絵葉書にみる名護屋城跡の今昔				
23	「名護屋城跡並びに陣跡」写真・絵葉書(パネル)			本館

【付記】

- このリーフレットは、テーマ展「探検!名護屋城跡・陣跡群」の解説書として、佐賀県立名護屋城博物館が発行した。
- 本展覧会を開催するにあたり、次の方々にご協力をいただいた(順不同、敬称略)。記して深謝申し上げます。
大阪城天守閣、唐津市教育委員会、名古屋市博物館、松本勝蔭、龍泉寺(唐津市鎮西町)、佐賀県立博物館
- この展覧会の企画は、高瀬哲郎、吉本健一をはじめ、館職員の指導・協力を得て野田利男、武谷和彦、市川浩文が行った。
- このリーフレットの執筆・編集は野田が担当した。

佐賀県立名護屋城博物館

Saga Prefectural Nagoya Castle Museum

〒847-0401 佐賀県唐津市鎮西町名護屋1931-3

TEL 0955-82-4905 FAX 0955-82-5664

[E-mail] nagoyajouhakubutsukan@pref.saga.lg.jp

ホームページ http://www.pref.saga.lg.jp/it-contents/kanko_bunka/k_shisetsu/nagoya/nagoyaindex.htm

- 開館時間 9:00～18:00(入館は17:30まで)
- 休館日 月曜日(休日の場合は翌日)及び年末
- 観覧料 無料(特別企画展開催期間中を除く)

平成18年7月28日発行

編集・発行

佐賀県立名護屋城博物館

©2006 佐賀県立名護屋城博物館



復元資料のため写真にも使用しています